



難しいと思われてきた人材登用で サービス産業の成長をデザインする

効率化と付加価値化に2極化しているサービス産業において、人材不足の現状がある。しかし、まだまだ可能性のある人材、特にハンディキャップ(ここでは、知的、精神障害、高齢者など)を持つ方たちへ、サポート、教育、働く場の創造を知的な発想で提供することで、サービス産業の成長をデザインする。企業の利便性で人材を確保するのではなく、難しいと思われてきた人材がサービス産業に入ることで、サービスの根幹にある譲り合い、許し合う良さをもう一度取り戻すとともに、今までにないサービス産業の発展へのモデルを提案する。